

評価担当
米倉 理事

海浜台地生物環境研究センター
センター長 有馬 進

個人評価の集計・分析並びに自己点検評価項目等について（回答）

1. 個人評価の実施状況

1)対象教員数，実施者数，実施率

対象教員数（人）	実施者数（人）	実施率（%）
3 (教授 1、准教授 2)	3	100

2)教員個人評価の実施概要

評価組織	海浜台地生物環境研究センター 個人評価専門委員会
構成	有馬 進（農学部教授／センター長） 長 弘幸（農学部教授／副センター長） 鄭 紹輝（センター准教授／副センター長）

実施内容と方法：

- ①海浜台地生物環境研究センター個人評価実施基準、同指針に基づき、評価項目とそれらの重みを各自が設定した。
- ②実施対象期間を平成 21 年度の 1 年間とし、活動実績に基づき自己点検・評価を行い提出した。
- ③評価専門委員会を平成 22 年 12 月 22 日に開催し、評価資料を点検し、委員会の評価とコメントを集約した。

2. 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

(1) 研究の領域

1)評価項目ごとの実績集計と分析

①論文数（H22.3 に退職した田中教授を含む。4 分野として算出）

	年間 1 研究分野当たり平均	最少	最多
学術論文	5.8	4.0	9.0
審査付き学術論文	2.8	1.0	6.0
講演発表論文（学術）	2.5	1.0	5.0

- ・ H20 年度は講演発表が多かったが、H21 年度は講演発表が減って論文が増加した。

②学内外共同研究、国際共同研究

・全員が学内外の共同研究または国際共同研究に参加し、農学部との共同研究についても進展している。

③競争的資金

・全員が研究代表者・または分担者として、年1件以上を獲得している。

④センター業務と連携した研究

・全員が業務と連携した研究を行っている。

2)研究の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価（達成率）は平均84%であった。各評価項目とも概ね目標を達成している。
- ・論文数の点では、全教員がセンターで発刊する **Coastal Bioenvironment** に毎年2報以上投稿していることは評価されるが、審査付き論文の投稿数が研究センター教員として、満足が得られる数字ではなく、一層の努力が必要である。
- ・田中明教授が、日本海岸林学会から学会賞を授与された。

3)研究の領域における部局等の自己点検評価

- ・単年度で見ると、業績数に研究分野間のバラツキがある。
- ・本センターの設立趣旨からして、佐賀県西北部の地域を対象とした研究活動を主体としていることから、地域向けの研究情報誌等への投稿の割合が高く、審査付き論文数の投稿数が伸び悩む傾向がある。

(2) 教育の領域

1)評価項目ごとの実績集計と分析

①教養教育／学部教育科目担当

- ・教養教育については、21年度は2名が1科目を、1名が農学部教員1名と共同で1科目を担当した。
- ・農学部の講義については全員が複数科目を担当した。

②大学院授業担当

- ・1名が1科目を、2名が2科目を担当した。

③農学部の卒業研究の指導

・2名が農学部の教育研究分野に準じ、複数名の学部学生の卒業研究を指導している。ただし、1名は卒業研究の指導を中止されており、早期の指導再開が望まれる。

④大学院の特別研究の指導

- ・有資格者は修士学生を複数名指導している。ただ、指導中止中の教員については、早期の指導再開が望まれる。

⑤学生生活指導、FD活動、教育改善の取り組み

- ・いずれの項目に関しても個々人の工夫で取り組んでいる。本学から離れていることもあるが、農学部教授会に併せて開催されるFD講演会・人権講演会等以外の研修の場にも積極的に参加する必要がある。

2)教育の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価（達成率）は平均 84%であった。研究センターの専任教員であることを考慮すると、おおむね達成されていると思われる。
- ・教養教育、学部教育、大学院教育の教科教育（講義）については、各評価項目ともに積極的に取り組み、十分に目標を達成している。
- ・教員 1 名については、修士論文・博士論文の個別指導を中止している状態であり、早期の対処が必要である。

3)教育の領域における部局等の自己点検評価

- ・本センターの教員は学部教育（卒業研究：卒論の個人指導）の負担義務はないが、学部教育（講義・卒業研究）を分担しなければ、修士課程の特別研究(修論)の個人指導ができない。そのために、今年度も農学部・農学研究科の教育に十分に貢献してはいる。

(3) 社会貢献の領域

1)評価項目ごとの実績集計と分析

①学会の役員、審議会などの委員

- ・全員が、県、地方自治体、関連学会などの委員長、委員、評議員、幹事など複数に就任している。

②国内研究集会の開催に貢献する

- ・全員がセンター主催の講演会、地方自治体の成果発表会などの企画、運営、講演などに貢献している。

③学外からの依頼講演など

- ・全員が高校等への出前講義、学協会等からの依頼講演等のいずれかを引き受けている。

2)社会貢献の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価（達成率）は平均 87%であった。
- ・田中明教授が、佐賀県緑化功労者表彰を受賞した。

3)社会貢献の領域における部局等の自己点検評価

- ・21 年度は、センターが 4 回のシンポジウム・セミナー・イベントを主催するとともに、全員が、複数回の国内研究集会に参加しており、社会貢献領域の活動は達成率が高かった。

(4) 国際交流の領域

1)評価項目ごとの実績集計と分析

①国際会議の開催、参加

- ・センター主催の国際シンポジウムは、平成 21 年度については開催しなかった。
- ・国際学会・国際会議への投稿・発表・参加は積極的であった。

②留学生・海外研修生の受け入れ

- ・3名の教員でのべ4名を受入れた。

2)国際交流の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価（達成率）は平均 87%であった。

(5) 組織運営の領域

1) 評価項目ごとの実績集計と分析

- ・センターの運営に関しては、全員が随時開催されるセンター教員会議に参加し、また、センター内各種業務に各教員が適宜当たっていた。

2) 組織運営の領域における教員の活動評価集計と分析

- ・自己評価（達成率）は平均 83%であった。

3) 組織運営の領域における部局等の自己点検評価

- ・少人数の組織であり、全員が業務を分担しない場合、特定の教員、特に副センター長に加重な負担となっている。
- ・上記の点を緩和するために外部資金の獲得などの自助努力も行っているが、運営資金・人的資源の確保が必要であろう。

3. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

1) 総合的な集計・分析結果と部局等の自己点検評価

	平均	最低値	最高値
研究	84	80	86
教育	84	80	92
社会貢献	87	80	100
国際交流	87	80	100
組織運営	83	60	100
平均	85	74	97

- ・各教員の総合的な評価点（達成率）は 85%である。
- ・教員個々の達成率の自己評価には、ばらつきが見られた。これは教員個々の個人評価制度に対する認識の差異によるものであった。

2) 個人評価に関する構成員からの意見を調査している場合は、まとめたものを添付

- ・特に意見はなかった。

3) 次年度の個人評価実施に向けての改善案が策定されていれば、それも記載

- ・特になし。

4) 段階評価試行結果の検討（意義、有効性、活用方法などに関して）及びこれに代わる総合的活動状況評価の集計・分析方法の提案など

- ・自己評価については、前述のように、教員個人によって評価基準が異なる。例えば、副センター長として組織運営に最大限尽力している教員よりも、他の教員が高い点数をつけることなどである。そのため、評価基準の統一や周知について、一考の必要がある。

以上.

平成 21 年度佐賀大学海浜台地生物環境研究センター活動実績

I. 研究成果

(1) 学会賞受賞

田中明：日本海岸林学会賞：海岸林整備に伴う廃棄物の有効利用．2009 年 11 月

田中明：佐賀県緑化功労者表彰受賞．2009 年 4 月

(2) 著書

鄭 紹輝：「発芽から苗立ちまで（マメ科）」および「開花結実（ダイズ）」．作物学用語辞典，日本作物学会編．農文協，東京．90-93，2010

(3) 論文

小林恒夫：玄界灘小島嶼社会の持続的展開条件（その 1）一向島を事例に一．*Coastal Bioenvironment* 13：1-12, 2009

小林恒夫：制度変革下における集落営農の展開構造—佐賀県の事例から—．*Coastal Bioenvironment* 14：1-35, 2009

山口和宏：「農地・水・環境保全向上対策」における地域比較．*Coastal Bioenvironment* 13：13-22, 2009.

田村善弘：離島地域における農産加工の現状と課題—長崎県五島地域を事例として—．*Coastal Bioenvironment* 13：23-31, 2009

田村善弘：長崎県離島地域における商業の現状と今後の課題．*Coastal Bioenvironment* 14：37-48, 2009

鄭紹輝・中元博明．上場地域における紅芯ダイコンの品質の年次変動および肥大期温度による影響．*Coastal Bioenvironment* 13：41-44, 2009.

TOTOK, A.D.H., RIYANTO, A., SOESANTO, L., SUWARTO, ANAS and ZHENG, S.H.
Field Resistance to Blast Disease and Yield Performance of High Yielding Aromatic Upland Rice in Indonesia. *Coastal Bioenvironment* 14: 57-64, 2009

FATICHIN, ZHENG, S.H. and ARIMA, S. Varietal Difference in Responses of Flowering Time and Plant Growth to Short Day Length in Soybean. *Coastal Bioenvironment* 14: 65-70, 2009

Nang Myint Phyu Sin Htwe, Tanigawa, H., Ishibashi, Y., Zheng, S.H., Yuasa, T. and Iwaya-Inoue, M. Nutrient starvation differentially regulates GmATG8i in soybean seedlings, *Plant Biotechnology*, 26: 317-326, 2009.

Tanaka, K., Onishi, R., Miyazaki, M., Ishibashi, Y., Yuasa, T. and Iwaya-Inoue, M. Changes in NMR relaxation times of rice grains, kernel quality and physicochemical properties in relation to nucellar epidermis in heat-tolerant and -sensitive rice cultivars at the early ripening stage,

*Plant Prod. Sci.*12: 185-192, 2009.

Ishibashi, Y., Tawaratsumida, T., Zheng, S.H., Yuasa, T. and Iwaya-Inoue, M. NADPH Oxidases act as key enzyme on germination and seedling growth in barley (*Hordeum vulgare* L.), *Plant Prod. Sci.* 13: 45-52, 2010

田中 明・真鍋将一 (2009) : 海岸林整備に伴う廃棄物の有効利用 (I) - 松葉による屋上緑化に関する研究 -、日本海岸林学会誌、8 No.1、1-4

田中 明・西村智恵 (2009) : 海岸林整備に伴う廃棄物の有効利用 (II) - 松葉炭による水質浄化に関する研究 -、日本海岸林学会誌、8 No.1、5-8

田中 明・筒井麻美 (2009) : 九州北西部における雪の成分について (II)、*Coastal Bioenvironmet*, 13、45-70

田中 明、宮田佳枝、上島裕樹 (2009) : 海岸林整備に伴う廃棄物の有効利用 - ハイゴケの水分特性と利用 -、*Coastal Bioenvironmet*, 14、71-74

田中 明 (2009) : 虹の松原の現状と未来日本の松原物語 - 海岸林の過去・現在・未来を考える - 日本緑化センター、90-96

亀井勇統・松本雅子 : 海洋細菌 *Pseudomonas* sp. ND137 株由来の粗酵素による効率的なノリプロトプラスト作出法の検討. *Coastal Bioenvironment* **13**, 33-40, 2009

亀井勇統 : インスリン分泌促進活性物質探索用の低レベル牛胎児血清培地順応 Beta-TC-6 細胞株の樹立. *Coastal Bioenvironment* **14**, 49-56, 2009

Kamei, Y., M. Sueyoshi, K. Hayashi, R. Terada, & H. Nozaki: The novel anti-*Propionibacterium acnes* compound, Sargafuran, found in the marine brown alga *Sargassum macrocarpum*. *J. Antibiot.*, 62, 259-263, 2009.

Isnansetyo, A. & Y. Kamei: Anti-methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) activity of MC21-B, an antibacterial compound produced by the marine bacterium *Pseudoalteromonas phenolica* O-BC30T. *Int. J. Antimicrob. Agents.* 131-135, 2009.

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・奥菌稔・椿光之助: ミシシッピーアカミミガメの食害調査 (II) ~ハス・スイレンの消滅事例に見る移入動物と食害発生の関係~. *Coastal Bioenvironment* Vol.14.75-80, 2009

AMINUL HOQUE, MICHAEL R. DAVEY, and SUSUMU ARIMA : Water Chestnut :
Potential of Biotechnology for Crop Improvement. Journal of New Seeds 10: 180-195, 2009

Tominaga, M. Nagata, K. Futsuki, H. Abe, T. Uchiumi, M. Abe, K. Kucho, M. Hashiguchi,
R. Akashi, A. M. Hirsch, S. Arima, and A. Suzuki: Enhanced nodulation and nitrogen
fixation in the abscisic acid low-sensitive mutant *enhanced nitrogen fixation1* of
Lotus japonicas. Plant Physiology Vol. 151:4, p 1965-1976, 2009

有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝: 蕨野棚田における石積みの植物 (秋季). 佐賀大学農学部彙報
95, 1-8. 2010

(4) 学会発表

石橋勇志, 俵積田智也, 鄭紹輝, 湯浅高志, 井上眞理. (2009) ムギ類の種子発芽と抗酸化物質の関係. 日本作物学会九州支部会. 2009年8月 佐賀

今村雅和, 江頭知穂, 石橋勇志, 井上眞理. (2009) 乾燥ストレス下のササゲとインゲンマメの胚軸の水分生理学的解析. 日本作物学会第228回講演会. 2009年9月, 静岡

石橋勇志, 俵積田智也, 笠晋介, 鄭紹輝, 湯浅高志, 井上眞理. (2009) オオムギ種子発芽における NADPH oxidases の役割. 日本作物学会第228回講演会. 2009年9月, 静岡

奥田宗広, Nang Myint Phyu Sin Htwe, 石橋勇志, 鄭紹輝, 湯浅高志, 井上眞理. (2010) ダイズの栄養飢餓ストレスで誘導されるオートファジーとエチレンシグナル. 日本作物学会第229回講演会. 2010年3月, 宇都宮

Fatichin, Zheng, S.H. and Arima, S. Varietal Difference in the Growth Rate during Seedling Stage in Soybean. 日本作物学会第229回講演会. 2010年3月, 宇都宮

田中 明 (2009): 海岸林整備に伴う廃棄物の有効利用ーハイゴケの水分特性と利用ー、日本海岸林学会全国大会

亀井勇統・松本雅子 (2009): 耐病性ノリ種苗の生物工学的作出の検討・31

海洋細菌 *Pseudomonas* sp. ND137 株由来粗酵素による効率的なノリプロトプラスト作出法の検討, 平成20年度日本水産学会春季大会, 2009年3月, 東京

Kamei, Y. & J. Koishizawa (2009): Possible application of fungal lytic enzyme to protect against red rot disease of *Porphyra yezoensis*. 9th International Phycological Congress 2009, August 2009, Tokyo

(5) 報告書、その他

Coastal Bioenvironment Vol. 13, 2009

Coastal Bioenvironment Vol. 14, 2009

平成21年度唐津市受託研究「海浜台地農林水産受託研究報告書」

虹の松原の現状と未来 (2009) 田中 明 日本の松原物語ー海岸林の過去・現在・未来を考えるー 日本緑化センター、90-96

II. 教育

(1) 学生への研究指導

【博士学生】

ファティチン

(主査：有馬進, 副査：鄭 紹輝)

【修士学生】

松嶋新：アメリカ花卉産業における流通と生産農家の発展条件 (副査：小林恒夫)

緒方俊介：大競争時代における農協の米マーケティング戦略 (副査：小林恒夫)

首藤和音：棚田保全をめぐるオーナー制度と重要文化的景観—大山千枚田と蕨野— (副査・小林恒夫)

趙 鑫：ダイズの葉における窒素の蓄積形態および収量への貢献 (主査：有馬進、副査：鄭 紹輝)

【学部学生】

川崎 真理 有機資材およびケイ酸の施用がハウレンソウの成長および品質に与える影響 (指導教員：鄭 紹輝)

上島 裕樹：松原整備に伴う廃棄物の有効—ハイゴケによる屋上緑化— (指導教員：田中 明)

納富 将吾：上場台地における生活排水による農業用水の汚染 (指導教員：田中 明)

中島 玲：沿岸地下水中の硝酸イオンについて (指導教員：田中 明)

小西 温香：ハイゴケを利用した作物栽培 (指導教員：田中 明)

(2) 担当講義

環境業水利学 (田中明、前期、農学部)

水気圏環境実験 (田中明、通年、農学部)

生物環境保全学概説 (田中明、後期、農学部、分担)

海浜台地生産機能学 (田中明、後期、農学研究科)

地域農業組織論 (小林恒夫、前期、農学部)

半島・島嶼産業論 (小林恒夫、後期、農学部)

農業政策論 (小林恒夫、後期、農学部)

海浜台地政策学特論 (小林恒夫、前期、農学研究科)

Advanced Agricultural Policy (小林恒夫、前期、農学研究科)

地域社会開発学概論 (小林恒夫、後期、農学部、分担)

フィールドワーク基礎演習 (小林恒夫、後期、農学部、分担)

海洋生物資源化学 (亀井勇統、前期、農学部)

海洋生物資源化学特論 (亀井勇統、後期、農学研究科)

マリンバイオ (亀井勇統、後期、全学部)

栽培技術論（鄭、前期、農学部）
栽培植物の世界（鄭、後期、全学、分担）
資源循環生産学概説（鄭、後期、農学部、分担）
作物生産学特論（鄭、前期、農学研究科）
Plant Production Science（鄭、前期、農学研究科）
作物生産学（有馬進、後期、農学部）
食用作物学（有馬進、後期、農学部）
作物学演習Ⅰ・Ⅱ（有馬進・鈴木章弘、前期・後期、農学部）
作物学実験実習Ⅰ・Ⅱ・（有馬進・鈴木章弘、前期・後期、農学部）
生物科学実験実習（有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝 他、前期、農学部）
作物生態生理学特論（有馬進、後期、農学研究科）
生産生物学特別演習（有馬進 他、通年、農学研究科）
栽培植物の世界（有馬進・鄭紹輝、後期、全学部）

Ⅲ. 社会貢献活動

（１） 地域貢献

ハス植付・ごみくい 2010年3月13日 佐賀城公園・赤松小学校、参加者500名

（２） 社会的諸活動

有馬進

2003-現在	佐賀県奨励品種選考委員会委員
2005-2009	国交省松浦川流域検討会委員
2004-現在	九州雑草防除研究会会長
2005-現在	日本雑草学会評議員
2007-現在	日本作物学会九州支部支部長
2005-現在	日本作物学会評議員
2010-現在	日本作物学会 事務局

田中明

2006～現在	日本海岸林学会評議員
2006～現在	日本砂丘学会評議員
2006～現在	唐津市環境審議委員会委員
2006～現在	日本緑化センター「海岸林の整備・保全手法に関する検討会」メンバー

バー

2006～現在	唐津市うみ・やま・かわ環境調和のまちづくり事業審査委員
---------	-----------------------------

小林恒夫

2009～現在 食農資源経済学会監事
2005～現在 まつら環境問題研究会会長

鄭紹輝

2007～現在 日本作物学会九州支部会評議員
2007～現在 日本作物学会九州支部会庶務幹事
2004～現在 佐賀県農業試験研究連絡調整会議上場営農専門部会評価委員
2008～2009 日本作物学会「Plant Production Science」誌編集幹事

亀井勇統

1999～現在 佐賀県環境影響評価審査会委員
2000～現在 日本動物細胞工学会評議員
2003～現在 日本動物細胞工学会幹事
2009～現在 Springer Cytotechnology Associate Editor

IV. 海外出張・国際交流

(1) 海外出張

有馬 進：国際根研究会講演会。 2009年9月、オーストリア
小林恒夫：韓国島嶼政策に関する調査。2009年12月21日～24日、大韓民国・ソウル・新安郡
田村善弘：韓国島嶼政策に関する調査。2009年12月21日～24日、大韓民国・ソウル・新安郡
山口和宏：韓国島嶼政策に関する調査。2009年12月21日～24日、大韓民国・ソウル・新安郡
鄭 紹輝：第8回国際ダイズ研究会議における成果発表。2009年8月10～17日、中国
鄭 紹輝：国際セミナーにおける講演。2009年11月5～11日、インドネシア

(2) 海外研究者の受入

氏名：Totok Agung
国籍：インドネシア
所属：Jenderal Soedirman 大学農学部教授
受入教員：鄭紹輝（平成21年11月11日～平成21年12月23日）

(3) 留学生の受け入れ

①氏名：アハメド・ジュナエド・ウッディン (AHMED JUNAYED UDDIN)
国籍：バングラデシュ
コース：佐賀大学大学院農学研究科
指導教員：小林恒夫（平成22年4月～）

②氏名：趙 鑫

国籍：中華人民共和国

コース：佐賀大学大学院農学研究科

指導教員：有馬進、鄭紹輝（平成 21 年 4 月～）

③氏名：ファティチン

国籍：インドネシア

コース：鹿児島大学連合農学研究科

指導教員：有馬進、鄭紹輝（平成 21 年 4 月～）

V. シンポジウム・セミナーの開催

(1) ハス再生シンポジウム 2009 年 11 月 28 日 佐賀市赤松公民館、参加者 100 名
プログラム

・基調講演「世界のハス・日本のハス」 京都府立植物園 金子明雄 氏

・ハス再生実行委員会経緯説明

・パネルディスカッション「ハス再生はどうあるべきか」

コーディネーター：有馬進

(2) 虹の松原シンポジウム 2009 年 12 月 5 日（国民宿舎虹の松原ホテル）、
参加者約 100 名
プログラム

1) 海岸林の景観 専修大学北海道短期大学 岡田 穰 浅野 ひかる

2) 虹の松原のきのこ きのこアドバイザー 蒲原 邦行

3) 韓国の松原の現状 韓国江原大学校全 槿雨

4) 虹の松原の今と昔 唐津郷土史家 富岡行昌

5) 松くい虫「マツ材線虫病」の機構と防除 元森林総合研究所九州支所長
吉田成章

6) 炭はなぜ植物の成長に効くのか 元森林総合研究所土壤微生物研究室長
小川 眞

(3) 虹の松原 緊急学習会 2010 年 1 月 29 日（佐賀大学海浜台地生物環境研
究センター セミナー室）、参加者 約 20 名
プログラム

1) 線虫とは？ 線虫に関する基礎知識 元佐賀大学農学部教授 近藤栄造

2) マツ材線虫の脅威と対策 元森林総合研究所九州支所長 吉田成章

(4) 「日韓沿岸島嶼問題シンポジウム 2010 からつ—島嶼開発・島興し・島づくりの未来
像を探る—」 平成 22 年 2 月 4 日 唐津市高齢者ふれあい会館りふれ
同上シンポジウム・ワークショップ 平成 22 年 2 月 5 日 唐津市加唐島

VI. 外部資金

唐津市：海浜台地農林水産受託研究 8,000 千円

(研究担当者：田中、小林、亀井、鄭)

佐賀県：佐賀城お堀のハス再生プロジェクト・受託研究 3000 千円

(研究担当者：有馬進・鄭紹輝)

三井物産環境基金：佐賀城お堀のハス再生プロジェクト・受託研究 1,500 千円

(研究担当者：有馬進・鄭紹輝)

日本学術振興会科学研究費 特別研究員経費 800 千円

(研究担当者：鄭紹輝)